

## 竹フローリング施工上の注意点

竹フローリングは無垢集成材のため、室内の空気中の水分を吸収、放出し室内調湿をして暮らし安くしてくれます。その結果として僅かな膨張、収縮を繰り返します。

施工方法や状況、お手入れの仕方によっては施工後、引渡し後に不都合を引き起こす場合がある為、下記事項に注意して施工して下さい。尚、当製品は内装用です。外部や水濡れ場所では、使用しないで下さい。

### 保管方法

- ・置き場所が湿っている所、湿度の高い所、直射日光の当る場所での保管は避けて、施工の1日以上前に梱包を開いて現場の空気に馴染ませて下さい。

### 床下地施工時

- ・基礎コンクリート、土間は乾燥してください。
- ・床下換気口、床上換気口を十分に設けて床下の結露防止をして下さい。
- ・根太、太引、束は下地ベースにしっかり固定し腐朽しにくい樹種を選び、プレナー仕上げした人口乾燥材を使用して、根太は303mm間隔以下が推奨されます。
- ・捨て張りは床下からの水分が直接フローリングに付着するのを防ぎます。厚さ12mm以上の下地板を、床鳴り、目違いのないよう捨て張りして下さい。
- ・湿度の高い場所での使用される場合は下地板と根太の間に防湿シートを敷き込んで下さい。

### フローリング施工時

- ・無垢材は1枚1枚全てに木目や色柄が異なります。施工前に仮並べをして、色や柄のバランスを調整してから張り込んで下さい。
- ・箱よりフローリングを取り出し仮並べとともにフローリングを十分空気に触れさせてください。
- ・張り込みの際、板の並びはきつく締めすぎず、感覚として名刺一枚分の僅かなスキ間があっても良いとお考え下さい。また施工時期（雨期・乾期）によってフローリングの状態は違いますので叩き込む強さを調整して下さい。
- ・**同封の名刺大のシート**はフローリング施工時、適度な隙間が空くよう密着部分に差し込むのにお使い下さい。
- ・釘は十分な長さを持ったフロー用ステープル又はフローリング用スクリーナードで下地板を通して、根太上に打ち固定して下さい。
- ・接着材を使用する時は、1液型ウレタン樹脂系木質用かエポキシ2液型木材用を推奨します。（木工用ボンド、酢酸ビニルエマルジョン系は、床鳴りの原因になりますので使用しないで下さい）
- ・壁面への納めは密着させず5～10mm程度の隙間を設けて巾木を上乘せして下さい。板の幅方向は際で着き付けをしないよう敷居下、框下等で適度に隙間（ゴム、コーキング等）を設けて下さい。水濡れは製品の膨張、カビの原因になります。
- ・長さ調整の為にフローリングを切断した場合は切断面に防水スプレーを吹きつけ切断面を保護することを推奨します。
- ・竹の特性上しなりのある物もありますが、製品品質、施工上問題はありません。
- ・大きな部屋（200㎡）以上に施工する場合は見切り板を使用することを推奨します。見切り板により修正がしやすくなります。

### 養生及び施工終了後

- ・施工終了後は表面保護の為、通気性のある養生シートを使用し床面を保護して下さい。（養生シートは濡らしたまま放置しないようにして下さい。）

### 日常の清掃

- ・日常清掃は掃除機でゴミ、ホコリを除去後モップなどの空拭きが基本です。
- ・水をいっぱい含ませた雑巾掛けは床材の変色、膨張の原因となりますのでお止め下さい。汚れ落としは強く絞ってから拭き取って下さい。
- ・表面の塗装仕上げ状況によって、メンテナンス用ワックス、オイル等の種類によって違いますのでお選びの際はご注意ください。

## フローリング加工時の推奨方法及び推奨工具

### \*切削時：

刃が薄く刃数の多い、竹用の丸鋸の使用をお勧め致します。

実例：

一般丸鋸仕様：190\*20\*60P



竹用丸鋸仕様：190\*1.6\*90P（一般ホームセンターで販売しています。）



## 仕上がり比較

\*一般木材用丸鋸：ささくれ、毛羽立ちが発生します \*竹用丸鋸：仕上がりが良く、ささくれ、毛羽立ち無し



ここで紹介する方法はあくまで推奨方法ですので、実際現場加工する時は必ず試し加工するようお願い致します。